

教育実習を通して、教師は日ごろから生徒の様子をよく観察し、何かあったときに生徒に綺麗ごとや嘘の感情を言わせるのではなく、本音で向き合えるような信頼関係を築くことの大切さを学んだ。実習 10 日目に私はある生徒からいじめの相談を受けた。もともと休み時間も一人でいることが多く、私も気になっていたのでよく声をかけていた女子生徒であったが、その日の休み時間に「先生、実は隣の席の人にあいつの隣、ヤダって言われるんです。」という相談を受けた。辛かったね、という声を掛けただけでなく、いつから言われるようになったのか、隣の席以外の生徒からは何も言われていないのか、どこで言われたのか、などを聞いて事実確認を行い、本人の承諾を得た上で指導教諭の先生に相談を行った。すると、すぐ指導教諭はいじめを行った生徒を一人ずつ呼び出し、話をしてくれた。本人たちは泣きながら自分が間違っていたことに気づくことができ、深く反省していた。教育実習の最終日に、その女子生徒から「先生、ありがとう」と言われたとき、毎朝、生徒玄関に立って生徒全員に挨拶をし、一人ひとりの様子を観察していたことが、今回、女子生徒が私に相談してくれたきっかけになったのではないかと感じた。

また、初めて担当した授業では、私が準備した発問に対して生徒に正解となる答えを発言させることに必死で、生徒自身に様々な角度や視点から考えさせることが出来なかった。その結果、ノートを書くことをやめてしまった生徒や寝てしまう生徒が何人もいた。指導教諭から授業後にアドバイスをしていただき、授業においては導入、ねらい、発問の 3 つがポイントになることを学んだ。たくさん悩み、考えて授業を行う分、生徒から「わかった！」という声が聞こえてきたときの喜びは言葉にできないものであった。この 3 週間の教育実習を終えて地元である〇〇県で教師として生徒に真摯に向き合い、ともに成長していきたいと強く感じた。